
仮面ライダーディケイド “フレッシュプリキュア！”の世界

ライジングワイルド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド “フレッシュプリキュア！”の世界

【Nコード】

N3560M

【作者名】

ライジングワイルド

【あらすじ】

スーパーショッカーとの戦いを終え、新たな旅に出た門矢士たち。次に来た世界は四人の女の子が“伝説の戦士プリキュア”として戦っている世界だった。

プロローグ（前書き）

小説初投稿です。

プロローグ

ここはとある写真館。そのオーナーである1人の老人、光栄次郎は3時のおやつにドーナツを作っていた。「ん、いい匂い。」「丁度揚げ上がったところだよ。土君達を呼んで来てくれ。」「はい。」

返事をしたのは、人間の親指程度の大きさの白いコウモリ、キバラーである。

「みんな、おやつ出来たわよ。」

キバラーが呼び掛けると、四人の若者が和気あいあいとやって来る。「う、腹減ったー！！」と“待つてました”とばかりにはしやぐのは仮面ライダークウガこと小野寺ユウスケ。「あんまり食べると夕飯食べられなくなりますよ。」と子供に言うような注意をするのは仮面ライダーキバラーこと光夏海。「ったく、ガキじゃあるまいしおやつくらいではしゃぎやがって・・・。」「そういう君もさつきまでいまかいまかと待ち続けてたんじゃないかい?」「なに!?!」「なにさ!?!」

と子供のような喧嘩をしているのが、仮面ライダーディエンドこと海東大樹。

仮面ライダーディケイドこと門矢士である。

そうこうしている間にテーブルに着き、栄次郎によって並べられたドーナツをパクつく四人。

「あつ、そのメロンドーナツいらならちようだい。」「ちよつ、駄目だってこれは最後にとってあるんだから。」

キバラーがユウスケのドーナツを狙ってくるがユウスケの方も負けじと自分のドーナツを守り通す。

そうこうしているとユウスケは壁紙にぶつかり、その拍子で幕が下りる。

そこにはピンク、青、黄、赤の鍵らしきものと、その中心に四葉のクローバーらしきものが描かれていた。

「新たな世界か・・・。」土が呟く。

こうして士たち仮面ライダーの新たな旅が始まった。

プロローグ（後書き）

間違いやアドバイスがあったらどんどん指摘して下さいとありがたいです。

4人の女の子達（前書き）

プリキュアの4人はラストあたりにしか出ません、悪しからず・・・。

4人の女の子達

「土君、その格好は・・・？」

「ダンサー・・・かな？」

外に出た土達。

そして、例のごとく土の衣装が変わり、今回の役割はダンサーらしい。

その格好は以前、“電王”の世界でリュウタロスに憑依された時に着ていた衣装に酷似している。

「土、ダンスなんて出来るのか？」ユウスケが尋ねると、「当然だ。俺に苦手な事なんてない。」そう言っ土は何処からか流れて来る音楽に合わせながら踊ってみせる。そのダンスは実にキレの良い動きだった。

「へえ、さつすが。」「ところでここは何の世界なんでしょう？」と夏海が疑問に思っていると、海東が答える。

「ここは“ライダーのいない世界 パート2”ってところかな。」

「ライダーのいない世界？」

「また？」

土達は以前にも“ライダーのいない世界”である“シンケンジャー”の世界に行った事があった。ここもまたそうなのか。

「さて、じゃあ僕はこの世界のお宝を頂きに行くでしょう。」

そう言っ海東は立ち去る。夏海が呼び止めようとするが、「ほっとけ。」と土に静止される。

「とりあえず俺達はこの世界の事を調べるか。行くぞ。」

「ちよっ、待てって。」「私も行きます。」

そう言っ町の方へ出かける三人。

まずはこの町、“クローバータウンストリート”と言っらしい。それぞれ手分けして情報を集めようとしていた。

その時。

どごおおおん！！！！！！！

「「「！？」」」

突然大きな音が鳴り響く。

音のした方を振り向くと、そこへいたのは巨大なバイクの形をした化け物だった。

「か、怪物だぁー！！！！！！」

「うわぁ、逃げろー！！！！！！！！！！」

人々はパニックになって逃げ惑う。

「土！！」

「つたく、着いて早々かよ！！」

「二人とも、あの怪物の上。」夏海が指を指す。

「フハハハハ、いいぞナケワメーケもつとやれ！！そしてこの町の奴ら全員“不幸”にするのだッ！！！！」

「アイツ・・・何て事するんだッ！！」

ユウスケが怒りに拳を振るわせる。

どうやらあの男がこの怪物、“ナケワメーケ”とか言うやつを操っているらしい。

「ユウスケ、夏海。俺があこの怪物を引き受ける。お前達はその上にいるやつを・・・。」

「分かった!!」

「はい・・・、キバーラ!!」

「はぁーい、お待たせ」

夏海はキバーラを呼び寄せ、ユウスケは自らの腰にアークルを出現させる。

士もディケイドライバーを装着し、ライドブッカーからカードを取り出す。

準備の整った三人が変身しようとした次の瞬間・・・。

「そこまでよ!!」

何処からか声がした。辺りを見回してみると、大きなビルの上に4つの人影を見つける。

「これ以上、クローバータウンストリートの人達を不幸にさせない!!」

士達は目を見張る。4つの人影は自分たちより年下の、だいたい中学生くらいの女の子だ。

「見る、プリキュアだ!!」

「プリキュアが来てくれた!!」

逃げようとしていた人々も彼女達、“プリキュア”を見た瞬間、歓声を上げる。

「あいつらが、この世界を守る世界か・・・。」

4人の女の子達（後書き）

次回、士達と接触します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3560m/>

仮面ライダーディケイド “フレッシュプリキュア！”の世界

2010年10月9日15時06分発行